



Eiche

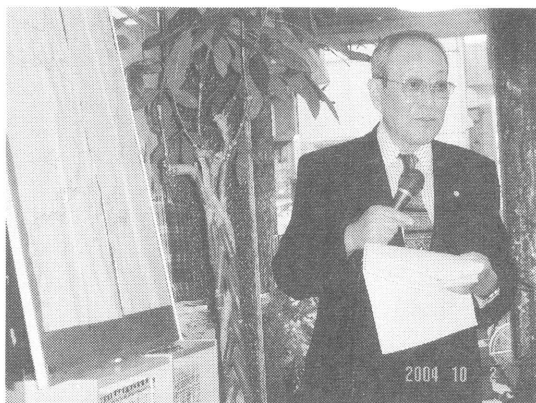
# Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

## 講演会とビール祭り



講演する歌田實理事



歌唱指導する、左から大河内、二宮、吉田さん、右は土生さん

今年のビール祭りは夏日を思わせる日となった10月2日(土)2:30よりJR西千葉駅前の「サン」にて28名の会員・知人を集めて開催された。初めに「59年を経て特攻を思う」と題して当協会理事の歌田實氏に講演をお願いした。歌田氏は太平洋戦争末期特攻隊に配属された時の状況、特攻の種類、特攻の意義、特攻誕生の背景などを自ら描いた日本と中国の地図や特別注文して作ってもらったという戦闘機・爆撃機の模型を使って説明。死を覚悟した中で感じたこと考えたことを話され、最後に父君が大切に保管してくれていたという特攻出撃前に家族宛に出した手紙(遺書)を読み上げられ、大変感銘を受けた。

4時半よりビール祭りに移り、ドイツ観光局より会員の鈴木寅夫氏が分けてもらった本場ミュンヘンのオクトーバーフェストのポスターを背景に金谷専務理事がデュッセルドルフ日本商工会議所藤本事務総長から送られてきた本場オクトーバーフェストに関する話題を読み上げ(別掲)懇親会に。5時過ぎからは、土生(はぶ)さんのアコーディオン伴奏で二宮一男さん、大河内ロスウィータさん、吉田千賀子さん、伊東惇子さんの歌唱指導でドイツ民謡などを合唱。最後に橋口常任理事より来年の「日本におけるドイツ2005/6」に向けて当協会としては千葉大学の講堂(けやき会館)を借りて講演会・討論会・チャター音楽会、それに講堂入り口ホールでは千葉県におけるドイツ関係団体の写真展を計画していることが発表されて6時過ぎ散会。

「五十九年を経て特攻を思う」

陸軍航空士官学校五十七期卒  
歌田 實 (当協会理事)

まず自分の経歴を述べると、大正十三年三月三日生まれ。津田沼小、千葉中(現千葉高)を経て、昭和十三年東京陸軍幼年学校入学。予科士官学校から航空士官学校(五十七期)へ入り昭和十九年三月卒業、見習士官、少尉任官。明野陸軍飛行学校を終了し、各種戦闘訓練を経験して昭和二十年一月にノモンハン事件で名をあげた飛行第二十四戦隊に配属となった。

当時この戦隊は、中国は広東(現広州)の白雲飛行場にいた。神奈川の父の本家上空でお別れをした後、九州の知覧、宮古島、台中、九竜啓徳経由で赴任。早速、南支沿岸船舶援護作戦に従事、初陣はB-24で隊長と共に攻撃したが自分の弾は命中せず。そうこうするうち、三月末に連合軍が沖縄に上陸、「天号作戦」という沖縄戦が始まり、宮古島へ移動。しかし、圧倒的な米英軍の猛攻に会い、台北へ後退して沖縄に出撃する特攻機の援護にあたった。更に、五月に宜蘭へ転進、練習機や使い古しの戦闘機に250キログラム爆弾を装備してやっとの思いで飛び立っていく十七八才の少年飛行兵などを途中まで援護していた。しかし沖縄が陥落する六月二十三日の五日前に我が隊にも特攻の命課があり、本土決戦に備えて準備しているうちに八月十五日を迎えて正に九死に一生を得た。しかし、それまでの七ヶ月間は死と隣り合わせの日々であり、周りの仲間が次々に居なくなるのを見ると「明日はわが身」と身の引き締まる毎日であった。

自分も香港上空で七発被弾したにも拘わらず無事帰還、父がくれた成田山のお札が割れていたのを見て、戦後今日まで毎月欠かさずに成田山にお礼参りをしている。(裏面へ続く)

～今後の主な催物案内～

▶ ドイツ軍人慰霊祭

日時：11月21日(日) 11:00～  
 場所：船橋市営習志野霊園内  
 JR 総武線津田沼駅北口よりバスで15分  
 「自衛隊前」下車、自衛隊正門に向かい  
 左手50mの角を右折、徒歩7分右側。  
 会費：直会の飲食代として3,000円

▶ クリスマス会(当協会主催)

日時：12月5日(日) 14:30～18:00  
 場所：JR西千葉駅西口前 喫茶「サン」  
 TEL：043-245-1255  
 会費：2,000円(ビール・ワインを含む飲食費  
 +ドイツケーキ・紅茶・コーヒー)  
 内容：第一部は忘年会、第二部は家庭的な  
 クリスマス会という形で福引も予定して  
 いますので、1,000円程度のプレゼントを  
 持参して下さい。

▶ 平尾浩三会長公開講座のお知らせ

期間：10月21日、10月28日  
 11月4日、11月11日、11月18日  
 時間：16:10～17:40  
 場所：日本橋学館大学(JR柏駅よりバス)  
 授業料：7,000円  
 内容：「みんなでドイツ語を読みましょう」  
 問合わせ：同大学総務課…TEL：04-7167-8655

※訂正とお詫び※

9月1日付、千葉県日独協会通信No.34の  
 <新入会員紹介>(敬称略)の中で一部誤り  
 がありましたので、下記の通り訂正しお詫び  
 致します。

11.氷山 巖 → 永山 巖

オクトーバーフェストについて

デュッセルドルフ日本商工会議所 事務総長・ニーダーライン日独協会 理事  
 (財)日独協会 評議員 藤本 修(デュッセルドルフ在住)

○ 9月に始まる Oktoberfest ?

ビールの本場として日本でも知られるオクトーバー・フェストが、今年は9月18日(土)から10月3日(日)迄開催されました。Oktoberfest なのにどうして9月に始まるのか不思議に思う方も多いかと思えます。開催期間は16日間と決まっており、10月最初の日曜日を最終日にして、この日から16日前まで遡ります。こうすると必ず初日は土曜日となり、この間に週末が3回あります。ビール醸造業者や主催者の逞しい商魂と言えます。

○ Oktoberfest の歴史

ビールを飲むようになった由来は今から194年前に遡ります。1810年10月12日、バイエルン国王 Maximilian I 世 Josef の皇太子 Ludwig (後の Ludwig I 世) の結婚式(相手はフォン ザクセン・ヒルトハウゼンの Therese 姫)は、数日間に亘って祝宴が開かれました。5日後、国王は Altstadt の外側、現在の Theresienplatz に国民を招待し、様々なアトラクションを催して喜びを分かち合ったそうです。最後のアトラクションが騎馬レース。優勝したのは馬車の御者をしていた男でしたが、豪華な賞品を貰ってもビールで祝杯とはならなかったそうです。翌年、同じ場所で家畜の品評会が開かれ、農民は皇太子御成婚1周年の祝賀行事として、騎馬レースを再開しました。この時、「一寸、ビールを飲んでも？」と Ludwig I 世に恐るおそるお伺いを立てたところ、「よし、よし、苦しゅうない」とお答えになったとか。これがきっかけで、Oktoberfest にビールを飲むようになったと尤もらしい話が伝わっております。粋な計らいをしたこの国王の騎馬像が Odeonsplatz を背にして立っております。

○ Oktoberfest の会場

会場になる広場は Theresien-Wiese (Wiese は芝生の意) と呼ばれており、空豆形の大公園ですが、お妃の名 Therese から由来している訳で、地元では Oktoberfest のことを単に Wiesn、或いは Wies'n (ヴィーゼン) と呼んでいます。美人の誉れの高かった Therese は Nymphenburg 城にある美人画のギャラリーに、36人の美女のひとりとして描かれているそうです。

○ 今年の Oktoberfest

今年の Oktoberfest の初日と最後の週末は、珍しくドイツ全土が好天に恵まれましたが期間中は雨の日も多く、人出は1985年の710万人には届かず590万人で飲まれたビールは昨年より10%ダウンの550万リットル、又1リットル入りの大ジョッキ(Mass)は昨年比5%値上がりして7ユーロ前後と市価の5倍でした。その代わり記念品として持ち去られたジョッキが21万個。飲酒運転で検問を受けた24,119人中、免停は517人だったとか。

< Nass statt Mass! > (了)

(表紙面より)

ここで特攻の意義を考えてみると、当事者は「死を覚悟している」のではなく「死でしか任務を遂行出来ない」のであり、天皇への忠誠よりも愛しい者達を守るという使命感の方が強かったと言える。

特攻が行なわれたのは十一ヶ月間の短期であったが敵に与えた心理的效果は絶大であった。しかし戦術としては最悪のものであったと思う。又、特攻と自爆テロを同一視する見方があるが、それは誤り。前者は目標を敵の艦船に限ったのに対して、後者は市民も巻き添えにする無差別なもの。

ところで特攻が生まれた背景であるが、ミッドウェー海戦での大敗(十七年七月)、十九年七月七日のサイパン陥落で追い詰められた陸海軍の幕僚部がこの作戦を考え始めて、その年の秋に編成されたと思われる。

この間、十九年五月四日に五十八期生を早朝非常召集した航空嫌いの東條大将は「アメリカの戦闘機は大和魂で撃墜せよ」と訓示、顰蹙(ひんしゆく)を買った。

いずれにせよ、この大東亜戦争では原爆を二カ所に投下され二百四十万人の犠牲者を出したが、このように十死零生の特攻隊の英霊があったことを我々は銘記せねばならないし、この事を後世に伝えることが生き残った者のつとめであると思う。

なお、現在までの調査によれば英霊は陸軍一三三七柱、海軍二五二二柱、回天ほかの特攻も含めると合計四七四三柱、しかも成功率十三、十四%、命中率は二、三%であったという。何をかいわんや、悲しく痛ましい結果であった。今年四月十九日より一週間程当時の仲間と共に特攻発進基地慰霊巡拝に参加、途中宮古島で海軍神風特攻隊第三龍虎隊の碑文に「背を丸め深く倒せし操縦桿、千万無量の思い今絶つ」とあるのを見て、往時を偲び感涙に咽んだ次第である。